

社会政策学会 Newsletter

学会本部 大阪市立大学経済学部 玉井 金五気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
 Tel 06-6605-2275 Fax 06-6605-3066 E-mail tamai@econ.osaka-cu.ac.jp
 事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 第110回大会のお知らせ
2. 総会の招集
3. 第110回大会プログラム
4. 秋季企画委員会報告
5. 編集委員会からのお知らせ
6. 国際交流委員会からのお知らせ
7. 日本学術会議関連報告
8. 専門部会報告
9. 地域部会報告
10. 幹事会議事録
11. 承認された新入会員

1. 第110回大会のお知らせ

来る5月28日(土)と5月29日(日)に、専修大学生田校舎で社会政策学会第110回大会が開催されます。ふるってご参加ください。多摩丘陵の新緑に包まれたキャンパスの会場でみなさまのご参加をお待ちしております。

ただキャンパスが丘陵地に広く展開しており、大会1日目(28日(土))の分科会会場と大会2日目(29日(日))の共通論題会場ではかなり離れているため、1日目と2日目で最寄りバス停が異なります。参加者のみなさまには、送付したプログラムのなかの交通案内をよくご覧のうえ、くれぐれもお間違えのないようお願いいたします。

今大会では「労働・生活時間の構造変化から見る社会政策 - 仕事と生活のバランスをめぐって -」を共通論題として掲げました。「時間」をキー概念に、新しい生き方・働き方を考えるテーマです。みなさまの積極的なご発言を期待しています。

またテーマ別分科会・自由論題分科会も多数予定されています。学会員はもちろん、周りで関心をお持ちの非会員の方にも声をかけて、学会のメインイベントに多数参加されますようお願いいたします。

なお、大会参加の予定を調べる葉書がプログラムといっしょにお手元に届くと思います。5月9日(月)が締切です。また参加費等の前納振込の締切も5月9日(月)です。開催校は多忙を極めます。どうか前納にご協力ください。

2. 総会の招集

2005年5月28日(土)に専修大学生田キャンパスで開催される社会政策学会第110回大会で会員総会を開催します。会員の方はご出席ください。議題として予定しているのは、

2004年度活動報告、2004年度決算報告、2005年度活動方針、2005年度予算、社会政策学会賞選考委員会報告、名誉会員の推挙、各種委員会報告等です。

3. 第110回大会プログラム

第1日 2005年5月28日(土)

9:45~11:30 テーマ別分科会(1) 自由論題(1)

<第1分科会> (ジェンダー部会) [975教室]

ドメスティックバイオレンス防止法のインパクトと社会政策

座長 湯澤直美 (立教大学)

「DV防止法制定から改正へ - その意義と課題 -」

戒能 民江 (お茶の水女子大学)

「DV法の成立 改正と被害者支援策の課題」

原田 恵理子 (佐賀県DV総合対策センター)

「DV法は女性の生活にどのような影響を与えたのか」

杉本 貴代栄 (金城学院大学)

<第2分科会> (保健医療福祉部会) [976教室]

イギリスにおける医療・福祉制度改革の現状とその評価

座長 郡司篤晃 (聖学院大学)

「医療制度改革について」 郡司 篤晃 (聖学院大学)

「福祉制度改革について」 平岡 公一 (お茶の水女子大学)

<自由論題 第1会場 労使関係と職場ルール>

[977教室]

座長 木下 順 (國學院大学)

「英国石炭産業の労使関係 労働組合による職場規制の変化」 木村 牧郎 (名古屋市立大学大学院生)

「アメリカ労使関係における『ジョブ・コントロール・ユニオニズム』 歴史的再検討の試み」 関口 定一 (中央大学)

「ジェンダー視角から見た全電通『育児休職』協約化の成立過程 1960年代の<家族的責任>と女性労働」

萩原 久美子 (一橋大学大学院生)

<自由論題 第2会場 社会保障の国際動向> [978教室]

座長 宮本 悟 (静岡県立大学)

「中国の社会保障再編と財政改革との関連について」

于 洋 (早稲田大学大学院生)

「受給権保護の観点から見たアメリカ企業年金の変化」

吉田健三 (松山大学)

「所得再分配の観点から見たスウェーデンの1999年公的年金改革」

山本 麻由美 (一橋大学大学院生)

<自由論題 第3会場 貧困と労働> [979教室]

座長 大須 眞治 (中央大学)

「アメリカにおける低賃金労働市場とワーキング・プア」

久本 貴志 (大阪市立大学大学院生)

「路上生活者の職歴と現在職」

鈴木 忠義 (東京都立大学大学院生)

11:30~13:00 昼休み

(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:00~14:45 テーマ別分科会(2) 自由論題(2)

<第3分科会>(労働組合法)【975教室】
労働組合運動が直面している現状と課題:企業別組合の活動の実態を中心として 電機産業の事例

座長 高木 郁朗 (日本女子大学)
コーディネーター 鈴木 玲 (法政大学)
松下電器グループの労働組合組織再編について」
重田 光俊 (松下電器産業労働組合)
事業構造改革に対応した労働組合の取り組みについて」
葛原 政一 (東芝労働組合)
電機産業の労使関係の課題」 林 大樹 (一橋大学)

<第4分科会>(社会保障部会)【976教室】

わが国における「ワーキング・プア」の現状
座長 浜岡 政好 (佛教大学)
開発主義国家体制下の社会保障と日本型雇用の解体」
後藤 道夫 (都留文科大学)
保育の民営化とケアの質」 垣内 国光 (明星大学)

<自由論題 第4会場 企業福祉と人事管理>【977教室】

座長 竹田 昌次 (中京大学)
企業社会の構造変動と職場メンタルヘルス」
中村 真人 (東京女子大学)
企業戦略と企業福祉』- 自動車産業の事例から」
桜井 善行 (名古屋市立大学大学院生)
「マネジドケア普及期における米国企業の従業員医療給付」
長谷川 千春 (京都大学大学院生)

<自由論題 第5会場 ジェンダーと雇用>【978教室】

座長 居城 舜子 (常葉学園大学)
ライフコースの自律性」佐川 成美 (会津大学短期大学部)
韓国と日本におけるソロ・マザーの雇用支援」
呉 英蘭 (佛教大学大学院生)
シングルマザーを対象とした就業支援策 - ワークフェアの日本的展開 - 」
田宮 遊子 (お茶の水女子大学大学院生)

13:00~16:00 テーマ別分科会(3)

<第5分科会>(一般公募)【979教室】
東京における産業 就業 福祉 地域における産業-福祉政策の接点

座長 松丸 和夫 (中央大学)
東京における産業・雇用構造の転換と石原都政」
武居 秀樹 (都留文科大学)
東京都の産業振興策と自営業者の就労および生活問題
商店街を形成する零細商店の実態を中心に」
宮寺 良光 (中央大学大学院生)
東京の建設労働者の賃金・就労実態と東京都の建設産業
関連施策」 村松 加代子 (日本大学)
東京都の障害者施策 障害児学校における進路と雇用・
就労を中心に」 原 康一 (中央大学大学院生)

15:00~16:45 テーマ別分科会(4) 自由論題(3)

<第6分科会>(産業労働部会)【962教室】

90年代における鉄鋼業の合理化
座長 森 建資 (東京大学)
コーディネーター 富田 義典 (佐賀大学)
大手製鉄所のライン労働と教育訓練」

永田 萬享 (福岡教育大学)
鉄鋼社外企業における労働の特質」
上原 慎一 (北海道大学)

<第7分科会>(学会史小委員会)【975教室】
「社会政策から労働問題へ」の時代 社会政策学会の歴史的回顧

座長 佐口 和郎 (東京大学)
「社会政策から労働問題へ 1950年代における研究動向
の転換」 山本 潔
「<労働問題研究>分野は、どのように形成され、どのように
消散していったか」 下田平 裕身 (信州大学)

<第8分科会>(第4回国際交流分科会)【976教室】
「第三の道の到達点」:ブレア政権下のイギリス社会政策

座長 河野 真 (兵庫大学)
コーディネーター 所 道彦 (大阪市立大学)
コメンテーター 山本 隆 (立命館大学)
「British Social Policy under the Blair Governments」(ブレア
政権下のイギリス社会政策)
マイケル・ヒル
(英国ニュー・カースル大学・ブライトン大学)
Michael Hill (Emeritus Professor, University
of New Castle Upon Tyne, and Visiting
Professor, University of Brighton)

<自由論題 第6会場 労働市場と若年雇用>【977教室】

座長 伍賀 一道 (金沢大学)
積極的労働市場政策と若年失業問題」
福島 淑彦 (名古屋商科大学)
「タイにおける大学生数の増加に伴う労働市場への影響
大学生の職業選択に関する調査結果から」
水上 祐二 (横浜国立大学大学院生)
「『公共職業安定所』『民間職業紹介所』『求人広告』- 転職
媒介機関の機能に関する実証分析 - 」
森山 智彦 (同志社大学大学院生)

<自由論題 第7会場 高齢者と生活支援>【978教室】

座長 上掛 利博 (京都府立大学)
高齢期のケア選好からみた、フォーマル・ケアとインフォ
ーマル・ケアの関連」 山口 麻衣 (上智大学大学院生)
「地域における単居高齢者の生活ネットワーク」
井上 双葉 (日本女子大学大学院生)
「中国の都市における高齢化の現状、支援需要と提供分析」
劉 怡 (東京医科歯科大学大学院生)

<自由論題 第8会場 福祉政策と地域福祉>【98教室】

座長 黒田 兼一 (明治大学)
障害者福祉施策の今後の方向性についての検討」
木村 敦 (種智院大学)
福祉有償運送をめぐる動向と課題」
田中 きよむ (高知大学)
「福田徳三における人間の位置 - 社会的なもの」とい観点
から」 川島 章平 (東京大学大学院生)

17:00~18:00 会員総会 【5号館525教室】

18:10~20:00 懇親会 【9号館5階アトリウム】

第2日 2005年5月29日(日)

のインプリケーション」

濱口 桂一郎(東京大学)

共通論題

労働 生活時間の構造変化から見る社会政策

仕事と生活のバランスをめぐって 【号館114教室】

座長 田中 洋子(筑波大学) 宮本 悟(静岡県立大学)

10:00~12:30 午前の部

農民の時間から会社の時間へ 日本における労働時間
と生活時間の歴史の変容」 斎藤 修(一橋大学)
ジェンダー視点からみた労働・生活時間の配分構造
統計による日本の実態の把握と検討」
水野谷 武志(北海学園大学)
EU労働法政策における労働時間と生活時間 日本へ

12:30~14:00 昼休み
(幹事会、各種委員会、専門部会)

14:00~17:00 午後の部

実行可能な労働時間政策を求めて」
久本 憲夫(京都大学)
コメントと問題提起 熊沢 誠(甲南大学)

総括討論

4. 秋季企画委員会報告

今秋の社会政策学会第111回大会は、すでにニューズレタ
ー等でお知らせしたとおり10月8日(土)9日(日)の2日間
にわたって北海道大学で開催されます。実行委員会にはす
でに昨年からの準備を進めていただいています。今回の秋季大
会も、例年と同様に、第1日目にテーマ別分科会、書評分科
会、自由論題分科会を設け、第2日目に共通論題が開かれる
予定になっています。

今回の共通論題のテーマは、「社会政策における福祉と就
労 自立支援を考える」(仮題)です。workfare 論などをふ
まえて、社会政策論の立場から福祉と就労の関係をどのよう
に考えるか、議論したいと思います。座長及び報告者は次の
通りです(報告テーマは、4月の打ち合わせ会で決める予定
です)。

座長 武川正吾(東京大学) 都留民子(広島県立大学)

報告者

シチズンシップ論の立場から 田村哲樹(名古屋大学)

国際比較の立場から 埋橋孝文(同志社大学)

生活保護世帯、ホームレスの自立支援と福祉
岩田正美(日本女子大学)

若者の就労支援と福祉

小杉礼子(日本労働政策研究 研修機構)

【自由論題・テーマ別分科会の報告募集】

第111回大会の第1日目に開かれるテーマ別分科会と自
由論題の報告者を募集しますので、報告をご希望の方は、下
記の要領でお申し込みください。

(1)自由論題で報告を希望される会員は、所定の応募用紙に
論題、所属、氏名、連絡先(住所、電話、Fax、Eメール・アドレ
ス)、400字程度のアブストラクト、専門分野別コード(1.労使
関係 労働経済、2.社会保障 社会福祉、3.労働史、労働運

動史、4.ジェンダー・女性、5.生活 家族、6.その他)等の必
要事項を記入のうえ、お申し込みください。

なお、論文、あるいは他の学会報告等のかたちで既発表の
ものは、報告が認められませんのでご注意ください。また、自
由論題に応募資格があるのは、会員であって、当該年度まで
会費を納入されている方です。

(2)テーマ別分科会を希望する専門部会や会員は、所定の
応募用紙に分科会のタイトル、座長・コーディネーターの氏名、
所属、連絡先(住所、電話、Fax、Eメール・アドレス)、報告者
の氏名、所属、論題(仮題でも可)、分科会設定の趣旨(400
字程度)、各報告者のアブストラクト(400字程度)等の必要事
項を記載のうえ、お申し込みください。

(3)自由論題、テーマ別分科会の申し込みは、原則として、学
会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を
記入したファイルを下記の秋季大会企画委員長宛にEメール
でお送りください。

(4)申し込み期間は、2005年5月16日(月)から6月15日(水)
迄です。やむを得ず郵送で申し込む場合は、当日必着です。
報告を希望される方は、締め切り後に変更のないよう留意し
てお申し込みください。

(6)募集に関する案内と応募用紙等については、後日学会ホ
ームページに掲載します。

秋季大会企画委員長 阿部 誠

〒870-1192 大分市旦野原700 大分大学経済学部

電話 & Fax : 097 - 554 - 7682

mail mabe@cc.oita-u.ac.jp

5. 編集委員会からのお知らせ

2006年3月刊行予定の『社会政策学会誌』第15号に掲載す
る投稿論文を募集しています。掲載ご希望の方は、2005年7
月20日までにお願いします(当日消印有効)。欧文論文も積
極的にご投稿ください。投稿資格、投稿論文執筆要領やレフ
ェル 規程については、社会政策学会ホームページにてご確
認ください。

投稿ご希望の方は、封筒に「社会政策学会誌 投稿論文在
中」と朱書きのうえ、法律文化社編集部宛に簡易書留でお送
りください。なお、送付先は学会本部(大阪市立大学)とは別の
所ですので、ご注意ください。

【送付先】

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71

(株)法律文化社編集部

(担当 浜上 知子【はまがみ・ともこ】)

【問合せ先】

社会政策学会誌編集委員長 橋元 秀一

E-mail hsyu@kokugakuin.ac.jp

6. 国際交流委員会からのお知らせ

1 今期の国際交流委員会では、韓国社会政策学会、英国

社会政策学会、中国社会科学院などとの交流を積極的に促

進していくことにしております。第110回大会では、その一環として、英国社会政策学会からマイケル・ヒル氏を招いて、第4回国際交流分科会を開催します。ふるってご参加ください。

2 中国社会科学院の社会学研究所には社会政策研究センターが設置され、社会政策の研究が行われています。現在、同センターが中心となって、中国社会政策学会の設立準備が進んでいます。本学会の国際交流委員会にも、そのための協

力を要請が来ており、可能なかぎり協力することにしました。

3 2005年9月、中国の人民大学が東アジアの社会保障に関する国際会議を開催する予定です。現在、日本側の窓口として日中社会保障交流委員会(委員長 田多英範会員)が連絡調整に当たっています。詳細が分かりましたら、学会メンバーリスト等をつづけてお知らせします。

文責 武川正吾

7. 日本学術会議関連報告

2005年3月8日、日本学術会議経済政策研連シンポジウムがおこなわれました。

当学会からは、私以外に、高田一夫会員、竹内敬子会員、伊澤誠会員、荻原康一会員、宮寺良光会員の合計6人が参加しました。ただ、全体の参加者数はピーク時でも100人を超えず、研連登録33学協会に5人以上の動員をかけた割には少なかつたと思います。

戒能通厚学術会議副会長、加藤寛初代研連委員長がそれぞれ基調報告をおこない、学術会議改革の現状、経済政策研連誕生の時代について興味深い講演がなされました。

経済政策研究連絡委員会委員 松丸和夫

本年9月末で経済政策研連は消滅します。それに代わって、夏休み前まで(副会長談)には、第20期の学術会議会員と連携会員が確定することになっています。当学会からは、幹事会の承認のもと、すでに7人の会員候補者情報を選考委員会宛に提出済みです。

短い期間でしたが、会員各位のご支援ご協力ありがとうございました。

8. 専門部会報告

労働組合部会

労働組合部会は、04年の108回大会(5月23日)で20人の会員の参加を得て設立された。部会の運営体制は以下の通りに決まった。

代表 高木郁朗(日本女子大学) 事務局 鈴木玲(法政大学) 世話人 中村圭介(東京大学) 松尾孝一(青山学院大学) 首藤若菜(山形大学) 福井祐介(西日本短期大学) 木下武男(昭和女子大学) 早川征一郎(法政大学、世話人代表)

また、秋季大会の分科会の企画について議論を行い1~2人の労働組合リーダー(企業別組合あるいは産別組織)に企業別組合の現状について報告してもらい、2人程度の研究者がコメントするという方法をとることが提案され、了承された。

大会後代表 事務局 世話人で相談して具体的に企画を検討した結果、自動車産業の組合幹部を招き、自動車産業労使関係を研究している研究者にそれぞれ報告とコメントを依頼することとなった。

秋季大会のテーマ、主旨、報告者、コメンテーターは以下の通り

・テーマ 労働組合運動が直面している現状と課題 企業別組合の活動の実態を中心として

分科会の主旨 労働組合部会分科会は、90年代以降の平成不況下での労働組合運動、とくに企業別組合の活動の実態と直面している課題をテーマとする。このテーマで議論をすすめるにあたって、実際に組合運動を実践しているユニオンリーダーに参加をお願いして、労働組合運動の現状と課題について報告していただき、労使関係に詳しい会員が報告に対してコメントをすることとなった。今回、分科会は自動車産業をとりあげる。…このような「実践家」と研究者との意見交換を通じて、研究者側は組合運動の「現場」で実際何が起きているか把握して分析視角を広げること、「実践家」側は今後の組合政策策定に生かせる見解を研究者との議論から得ることが期待される。

報告者 加藤裕治(自動車総連会長) 東正元(トヨタ自動車労働組合執行委員長)

・コメンテーター 藤田栄史(名古屋市立大学) 石田光男(同志社大学)

9月11日に、加藤自動車総連会長、および藤田会員の参加を得て準備会を法政大学市ヶ谷キャンパスで行い、前もつ

て提出した質問事項(雇用問題をめぐる労使協議のあり方、賃金制度の改変[とくに成果主義賃金制度への移行]、賃金以外の労働条件[とくに労働時間短縮や労働密度の軽減]、組合員の「意識の多様化」の把握と対応、企業組織改変[分社化等]への対応と組織拡大の方針[対象、方法]と実践[実行体制、成果]、雇用形態の多様化に対する対応、今後の産別、労連、単組レベルにおける労働組合機能のあり方について)にもとづいて加藤会長に報告していただき、藤田会員がコメントをして、議論点を整理した。また、高木郁朗代表他8人の組合部会会員が参加し、質疑応答に加わった。

第109回大会(10月16日)に開催された労働組合分科会は、多数の参加者を得て盛況のうちに行われた。そして、主に賃金制度、労働時間、労使関係のあり方に関して報告、コメントが行われ活発な議論が行われた。分科会の進行は以下の通り

・座長 高木郁朗、コーディネーター 司会 鈴木玲
報告 「自動車総連加盟メーカー組合の働き方に関する現状と課題」加藤裕治(自動車総連 会長)

報告 「トヨタ自動車労働組合の取り組みについて」(東正元トヨタ自動車労働組合 執行委員長)

・コメント 労働時間と社会的レベルでの職業・家族・個人生活の調和の規範化の問題 藤田栄史 会員

・コメント 今、労働組合はどのような役割 機能を果たしているのか? 石田光男会員

・座長コメント

報告者コメント

質疑応答

なお、分科会の記録は、「自動車産業の企業別組合の機能と課題」賃金と社会保障』2004年12月上旬号に掲載された。

10月17日に労働組合部会の打ち合わせを大会会場で行い、第110回大会の企画を検討した。その結果、春季大会では電機産業の企業別組合の役割について取り上げることになり、東芝労組と松下労組のユニオンリーダーに報告を、林大樹会員(一橋大学)にコメントを依頼することとなった。現在、事務局を中心に準備を進めている。

(文責 鈴木 玲)

保健医療福祉部会

2004年度の保健医療福祉部会の活動としては、社会政策学会第108回大会(春季)において、保健医療福祉部会による分科会を開催した(2004年5月22日)。テーマは「介護保険4年目の評価」であり、以下の出席者により執り行った(敬称略)。座長 近藤克則(日本福祉大学)、発表者 堤修三(大阪大学)、里見賢治(大阪府立大学)、コメンテーター 栃本一三郎(上智大学)、山崎麻耶(日本看護協会)、コーディネーター 小山秀夫(国立保健医療科学院)。

また社会政策学会第109回大会(秋季)においても、保健医療福祉部会による分科会を開催した(2004年10月16日)。テーマは「医療保険制度の再構築 - 高齢者医療と保険者のあり方をめぐる論議について - 」であり、以下の出席者により執り行った(敬称略)。座長 土田武史(早稲田大学)、発表者 遠藤寿行(日本経団連)、矢野聡(代)(日本大学)、コメンテーター 権文善一(慶應義塾大学)、コーディネーター 矢野聡(日本大学)。

さらに2004年12月11日には、保健医療福祉部会主催によるシンポジウムを上智大学において開催した。テーマは「介護保険制度の見直しと介護サービスのマネジメント」であり、以下の出席者により執り行った(敬称略)。介護保険制度の見直しと介護サービスのマネジメント基調報告: 田中滋(慶應義塾大学大学院)、特別報告: 二木立(日本福祉大学)、テーマ「介護保険制度の見直し議論を見直す」基調報告: 栃本一三郎(上智大学)、特別報告: 関田康慶(東北大学大学院)、コーディネーター: 小山秀夫(国立保健医療科学院)。(文責: 藤澤由和)

非定型労働部会

2004年度の活動

1. 学会分科会への参加

社会政策学会第109回大会テーマ別分科会「非定型労働(在宅労働 派遣労働)をめぐる諸問題」として

在宅労働 派遣労働を取り上げ、法制化をめぐる諸問題を中心に報告 検討を行った。

報告テーマ 報告者は以下のとおり

1) 在宅労働研究の課題と方法 概念整理 類型論

高野 剛(大阪市立大学大学院)

2) 在宅ワーク立法化への諸試論をめぐって

神尾 京子(家内労働研究会)

3) 派遣労働者の現実と組織化 法的保護の課題

脇田 滋(龍谷大学法学部)

2. 部会例会

05年3月26日(土)午後2時~4時30分、場所 野村ビル内 日本大学校舎、

報告テーマ:「家内労働法の成立過程」報告者 河越重任氏(岩手大学名誉教授)

参加者 9名、討論内容:「家内労働法の成立期における当時の地場産業の実態、業者間協定方式の最賃制との係わり 労働基準法の変容との関係など活発な討論が行われた。

(文責: 小越洋之助)

総合福祉部会

世話人の病氣入院などで開催できなかった。

(文責: 上掛利博)

9. 地域部会報告

東北部会

日時: 平成16年12月11日(土)午後1時から5時30分まで

場所: 東北学院大学土樋キャンパス

参加者: 13名

報告:

1. 横山英史(東北福祉大学研究生、非会員)

障害者福祉について

2. 楊 世英(東北学院大学、発表時非会員)

中国の労働市場

3. 熊沢由美(東北学院大学)

被占領期日本の社会福祉

4. 伊部正之(福島大学)

松川事件総括

報告終了後、忘年会をかねた懇親会を開催。

(文責: 斎藤義博)

関東部会

関東部会研究会を開催した。

年月日 2004年7月24日

会場 立教大学池袋キャンパス 12号館 4階経済学部第1・2

共同研究室

報告

● 「派遣会社の雇用責任について」

鹿生治行氏(立教大学大学院)

● 「70年代後半以降における雇用・労働市場と年金制度の展開過程 企業年金二法制定の歴史的位をめぐって」 大竹晴佳氏(一橋大学大学院)

参加者は16名であり、うち非会員の大学院生が4名参加した。院生を中心に若手の参加率が高かった。報告の後討論が

活発に行われた。

(文責: 井上雅雄 菅沼隆)

東海部会

社会政策学会東海部会 2004年度年次(第7回)研究会は、2004年11月27日(土)午後1時より中京大学名古屋キャンパスセンタービル08A教室を会場に、近年では最大規模の20名ほどの出席をえて開催されました。以下のように、3会員から報告が行われました。木村牧郎(名古屋市立大学経済学研究所)「英国石炭産業の労使関係 労働組合による職場規制の変化」(1970年代の英国石炭産業の労使関係を対象に、労務管理と労組の職場規制を歴史的に分析)。山本郁郎(金城学院大学)「労働力多様化の中での新しい働き方 - 非典型労働力との共生 - 」(自動車産業における非典型労働者の急増が職場の学習システムや労使関係に及ぼす影響を分析)。植田洋(日本福祉大学社会福祉学部)「地方自治と公共圏 - 潜在能力/公共圏/社会的共同業務の接点をめぐる論点」(セントハーバースの理論を手がかりとしてコミュニケーションの行為に基づく公共圏の形成の意義を「個人の自由」視点として解明)。いずれも刺激的な論点提示であり、これに基づく活発な議論が予定時間を越えて行われました。なお研究会終了後には会場校である中京大学にご配慮いただいて懇親会も行なわれ、今後の部会活発化に向けた意気も盛り上がりました。(文責: 木村隆之)

関西部会

日時: 2004年12月4日(土) 午前11時~16時30分

場所: 大阪市立大学文化交流センター

出席者: 29名

研究報告 特集「パティエラインの現在」

座長 居神 浩(神戸国際大学)

1) アメリカにおける Working Poor

久本 貴志(大阪市大大学院)

- 2)最低賃金問題から総合的社会保障への見直し
石橋 和彦(同志社大学大学院)
- 3)ホームレス自立支援における予防的措置としての就労支援等の現状と課題

海老 一郎(西成労働センター)

- 4)近年日本における貧困調査と複合的貧困基準の提唱
室住 眞麻子(帝塚山学院大学)

貧困の形態と内容が多様化している。貧困がかつてのように絶対的なものとはいえなくなる面も出てきている。行政で実際に対応されている経験から、現状の改善方向を考察する報告や、統計的、理論的に総合化する報告が行われ、実務経験者を変え、フロアーからの質問に対して活発な討論が展開され、問題の深さを知る上でまことに有意義な研究会であった。
(文責 大塚 忠)

九州部会

<第79回研究会>

日時 2004年9月18日(土)13時半から

会場 西南学院大学学術研究所1階大会議室

出席者 9名

シンポジウムテーマ

中国・アジアの日系企業の経営 労働事情

座長 富田義典(佐賀大学経済学部)

パネリスト

・日本企業の海外生産の役割と国内産業の再編 タイにおける電機産業の生産 経営実態を中心にして

(阿部誠 大分大学経済学部)

・中国日系企業の労働事情

(久野国夫 九州大学大学院経済学研究院)

コメンテーター ラタナーヤカ・ピヤダーサ

(佐賀大学経済学部)

<第80回研究会>

日時 2005年2月12日(土)13時半から

会場 大分大学経済学部 第一会議室

出席者 15名

(報告)

1. 社会保険の保険学的考察、

小川浩昭(西南学院大学商学部)

2. 自動車産業の賃金 富田 義典(佐賀大学経済学部)

(文責 久野国夫)

10. 幹事会議事録

【第5回幹事会記録】

- (1)名称 社会政策学会 2004年-2006年 第5回幹事会
- (2)日時 2004年10月15日(金)午後2時-5時(大会前日)
- (3)場所 大阪市立大学学術情報総合センター9F グループ研究室1

- (4)出席 阿部、木本、熊沢、猿田、武川、田中、玉井、乗杉、橋元、服部、兵頭、松丸、室住、森、山本
欠席 大沢、伍賀、佐口、菅沼、竹内、富田、野村、橋本、宮本、伊藤

(5)議題

1. 新入会員承認

2名の新入会員の承認をした。

2. 秋季大会企画委員会報告

阿部委員長より109回大会に向けての経過報告と一部プログラム変更等のアナウンスがあった。

3. 109回大会開催校報告

(1)玉井実行委員長から準備は順調に進んでいること、それに加えて当日かなりの参加が見込まれるとの報告があった。

(2)事前申し込み割引の処理について、当日受付で割引額を戻すことにする旨の説明があった。

(3)期日までに送られてこないペーパーについて、今後提出の徹底に関する話し合いがなされた。

4. 春季大会企画委員会報告

(1)田中委員長より 来年春の共通論題について 10月11日に打ち合わせ会を開催したこと、そして次回は1月を予定しているとの報告があった。

(2)自由論題報告について、既発表論文や他学会での報告があるものは基本的に不可として募集したいこと、それと英文タイトルを添えての申請にする旨の報告があり了承された。

5. 110回大会について

開催校である専修大の兵頭幹事より 準備の進捗状況についての報告があった。

6. 編集委員会報告

橋元委員長より 配布資料に基づく報告、提案等があった。

(1)第13号の欧文頁の増加に要する費用について事情説明がなされ、了承された。

(2)来年度学会誌出版助成の申請について、その概要、今後の手続きについて報告があった。また投稿規定の英文要旨を200語程度から400語程度へ変更することも承認された。

(3)学会誌改革(非会員執筆者への謝礼、レフェリーへの謝礼、献本等)について、意見交換を行った。

(4)英文論文・英文サマリーのネイティブチェックのあり方について、今後の方針が説明された。

(5)海外購読者 購読機関の獲得へむけて、一層の販売努力を行っていききたいこと、つまり寄贈交換、そのためのリスト作成等を進めていくことが報告された。

7. 国際交流委員会報告

第4回幹事会で武川委員長から出された国際交流委員会に対する旅費規程の適用については、規程の改正、ならびに総会の承認が要るので、さらに検討することにした。

8. ホームページ担当報告

ホームページ充実のあり方について、意見交換した。

9. 学会賞選考委員会報告

10月16日に選考委員会を開催し、委員長を選出するとの報告があった。

10. 日本学術会議について

松丸幹事より 資料をもとに日本学術会議 第5回経済政策研連の報告が詳細になされた。それに基づき、会員選考の方法の変更等を中心に質疑応答があった。

11. ニュースレターについて

2004年10月12日付けで第2号を発送したとの報告があった。

12. その他

学会活動推進基金の使途について、意見交換した。

【第6回幹事会記録】

(1)名称:社会政策学会 2004年-2006年 第6回幹事会
(2)日時:2004年10月16日午後11時45分-午後1時
(3)場所:大阪市立大学学術情報総合センター9F グループ研究室1

(4)出席:大沢、伍賀、玉井、富田、服部、松丸、宮本、森、伊藤
欠席:阿部、木本、熊沢、佐口、猿田、菅沼、竹内、武川、田中、野村、乗杉、橋元、橋本、兵頭、室住、山本

(5)議題

1.新入会員承認

2名の新入会員を承認した。

2.109回大会開催校報告

玉井実行委員長より大会が順調にスタートした旨の報告があった。

3.111回大会について

宮本幹事から、北海道大学で開催される大会運営について、業務の一部を外部委託する方向であるとの説明が、詳細な資料をもとになされた。

4.学会賞選考委員会報告

選考委員長に高木郁朗会員が選出されたとの報告があった。

5.その他

学会運営について自由に意見交換した。

【第7回幹事会記録】

(1)名称:社会政策学会 2004年-2006年 第7回幹事会
(2)日時:2004年10月17日(日)午後12時20分-午後1時30分

(3)場所:大阪市立大学学術情報総合センター9F グループ研究室1

(4)出席:木本、熊沢、猿田、武川、玉井、富田、兵頭、松丸、宮本
欠席:阿部、大沢、伍賀、佐口、菅沼、竹内、田中、野村、乗杉、橋元、橋本、服部、室住、森、山本、伊藤

(5)議題

1.新入会員

1名の新入会員を承認した。

2.109回開催校報告

玉井実行委員長より2日目も順調に進行していること、ならびに参加者数が秋の学会では最高になるかもしれないとの報告があった。ただし、報告者に1人キャンセルが出たことについて、事情説明があった。

3.学会賞選考委員会報告

選考のための出版物の提供の仕方について富田幹事から課題提起があり意見交換した。まずは、学会ホームページやニューズレターで提供を呼びかけることにした。

4.国際交流委員会報告

武川委員長から、来年春の大会で国際交流の場として1セッションを設けるとの報告があった。

5.その他

(1)学会活動推進基金の使途について、国際交流のための積極的使用、若手研究者の学会報告旅費補助、欧文文献化した形での発行等の意見が出された。

(2)早川会員から業績リストの効用についての問い合わせがあり意見交換した。とりわけ学会賞の選考をはじめ、いろいろ役立っていることが確認された。

【第8回幹事会議事録】

(1)名称:社会政策学会 2004年-2006年 第8回幹事会

(2)日時:2005年1月22日(土)午後2時-5時

(3)場所:大阪市立大学経済学部会議室(経済学部棟2階)

(4)出席:阿部、伍賀、菅沼、竹内、田中、玉井、乗杉、橋元、服部、兵頭、室住

欠席:大沢、木本、熊沢、佐口、猿田、武川、橋本、松丸、宮本、森、富田、野村、山本、伊藤

(5)議題

1.新入会員承認

13名の新入会員の承認をした。

2.109回大会開催校報告

(1)大会参加費支払いの内訳が資料に基づいて報告された。

(2)早川会員から託児所のお知らせの仕方に対する意見があり、できるだけ具体的に情報提供していくことについて議論した。

3.春季企画委員会報告

(1)田中委員長から110回大会の応募状況について、報告があった。自由論題報告申し込みは24件、専門部会は7件であった。

(2)学会時におけるパワーポイント使用とフルペーパー提出義務等について、意見交換を行った。とくに、フルペーパーのホームページ掲載についてはより検討を重ねることにした。

4.110回大会について

兵頭幹事より、開催校の実行委員長等が決定したとの報告がなされた。実行委員長は、高橋祐吉会員、事務局長は浅見和彦会員。

5.秋季企画委員会報告

阿部委員長より以下の報告がなされた。

(1)109回大会の反省点としていくつかの指摘がなされた。たとえば、テーマ別分科会で事前準備の遅れたものがあったこと、またある研究報告の水準にかなり疑義が出されたこと、他方では1セッションの時間をどれくらいにするか、セッションの時間帯を統一して移動をより可能にするべきではないか等である。これらについて意見交換した。

(2)111回大会(2005.10.8-9、北海道大学)の共通論題は、「社会政策における福祉と就労-----「自立支援」を考える」(仮)の方向で固まりつつあり、早急に座長、報告者の選考に移りたい旨のアナウンスがあった。

6.111回大会について

会場については、同日に他の学会が開催されることになったので、調整を行ったとのこと。また、近畿日本ツーリストへの事務委託(航空券、ホテル予約、参加登録業務、金銭管理、懇親会、保育サービス、エクスカージョン等)について報告があった。

7.編集委員会報告

橋元委員長から第13号の進捗状況(投稿論文全て不掲

載、欧文頁対策等)の報告があった。他方で、配布資料をともに、科研補助金関係、学会誌の改革(発行回数、非会員執筆謝礼、レフェリー謝礼、ネイティブチェック)について説日本明がなされ、意見交換した。

8.国際交流委員会報告

委員長代理として出席した所会員から春季大会での国際交流委員会企画「マイケル・ヒル教授報告「ブレア政権の社会政策」について説明を受けた。同教授は今後の日英交流について幹事会メンバーとの意見交換を希望しているので、春季大会のときにそのための時間を取ることにした。なお、同教授の航空運賃の件について了承した。

9.ホームページ担当報告

大会報告のペーパーや資料のホームページへの掲載について意見交換した。重要な問題なので引き続き検討することにした。また、ホームページ予算の使途について、二村会員から出されている案(「社会政策学会史料」のデジタルテキスト化)を進めることにした。

10.学会賞選考委員会報告

選考のための文献収集について、ニューズレターで会員に提供を呼びかけることにした。

11.日本学術会議関係報告

学術会議会員候補者の情報提供について、報告がなされた。また、科研の選考委員の情報提供についても、幹事会メンバーを中心に協力の呼びかけを行った。

12.学会名簿の刊行について

刊行、発送についての報告がなされた。

13.ニューズレターについて

12月発行予定が1月発行となったことについて事情説明がなされた。

14.英文年報について

小笠原会員に編集、執筆をお願いし、了承を得たとの報告があった。

15.その他

立教大学が開催校となる112回大会について会場の使用料金を徴収する可能性についてアナウンスがあった。今回の幹事会のまえに企画検討委員会が開催されたこととの報告があった。

11.承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
<1月22日の幹事会で承認(13名)>			
江本純子	佛教大学大学院社会学研究科博士後期課程	社会保障・社会福祉	朴光駿 岡崎祐司
永田 瞬	一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程	労使関係・労働経済	黒田兼一 山垣真浩
米田耕士	名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程	労使関係・労働経済	久本憲夫 居神 浩
道中 隆	大阪府健康福祉部	社会保障・社会福祉	玉井金五 岩田正美
李 永子	奈良女子大学大学院博士課程	社会保障・社会福祉	玉井金五 服部良子
大津谷久美子	大阪市立大学大学院経済学研究科博士後期課程	社会保障・社会福祉	玉井金五 服部良子
森山智彦	同志社大学大学院文学研究科修士課程	労使関係・労働経済	石田光男 浦坂純子
呉 英蘭	佛教大学大学院社会学研究科博士後期課程	社会保障・社会福祉 ジェンダー・女性	朴光駿 渡辺千壽子
小川浩昭	西南学院大学商学部	その他	久野国夫 平木真朗
黒沼精一	佛教大学大学院社会学研究科院生	社会保障・社会福祉	朴光駿 渡辺千壽子
福島淑彦	名古屋商科大学総合経営学部	労使関係・労働経済	玉井金五 服部良子
劉 怡	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科院生	社会保障・社会福祉	玉井金五 服部良子
萩原久美子	一橋大学大学院社会学研究科院生	労使関係・労働経済 ジェンダー・女性	木本喜美子 竹中恵美子
<4月9日の幹事会で承認(13名)>			
楊 世英	東北学院大学教養学部	労使関係・労働経済	斎藤義博 阿部重樹
大友優子	新潟県立看護大学看護学部	その他	杉村 宏 星野信也
大友康博	新潟県立看護大学看護学部	社会保障・社会福祉	杉村 宏 星野信也
杉本貴代栄	金城学院大学現代文化学部	社会保障・社会福祉 ジェンダー・女性	居城舜子 湯沢直美
燕 秋梅	首都経済貿易大学経済学院	社会保障・社会福祉	田多英範 土田武史
陳 紅	首都経済貿易大学労働経済学院	労使関係・労働経済 社会保障・社会福祉	田多英範 土田武史
大矢奈美	旭川大学経済学部	労使関係・労働経済	神代和俊 佐口和郎
鈴木 泉	北海道下川商業高等学校	労使関係・労働経済	玉井金五 服部良子
沈 潔	浦和大学総合福祉学部	社会保障・社会福祉 ジェンダー・女性	土田武史 田多英範
山下裕史	種智院大学仏教学部	社会保障・社会福祉	木村 敦 岡田忠克
林 祐司	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程	労使関係・労働経済	久本憲夫 長尾博暢
藤林慶子	東洋大学社会学部	社会保障・社会福祉	小山秀夫 長澤紀美子
畠中 亨	中央大学大学院経済学研究科院生	社会保障・社会福祉	松丸和夫 森 建資